

## 〈高砂〉

ワキ (神官)：高砂や、この浦舟に帆をあげて、この浦舟に帆をあげて、  
 月もろともに出汐の、波の淡路の島影や、遠く鳴尾の沖すぎて、は  
 や住之江に着きにけり、はや住之江に着きにけり  
 シテ (住吉の神)：われ見ても久しくなりぬ住吉の、岸の姫松幾世経ぬらん、  
 睦ましと君は知らずや瑞籬の、久しき世々の神かぐら、夜の鼓の拍子を  
 揃へて、すゞしめ給へ、宮つこたち (中略)  
 地謡 (住吉の神のかわりにうたう)：千秋楽は民を撫で、万歳楽には命を延ぶ、相生  
 の松風、颯々の声ぞ楽しむ、颯々の声ぞ楽しむ

たかさごや。このうらぶねにほをあげてー。

このうらぶねにほをあげて。

つきもろともにいでしおの。

なみのあわじのしまかげや。

とおくなるおの↑おきすぎて

は↑アやすみの↑おえに。つきにけり

は↑アやすみの↑えにつきにけりー

## 「能楽講座」プログラム

日時：8月10日 (月)

場所：河村能舞台

- |                |  |
|----------------|--|
| 1 挨拶と趣旨説明      | 鈴江 昭   |
| 2 「能」について      | 河村 晴久  |
| 3 「囃子」演奏       | 笛 森田 保美<br>小鼓 吉阪 一郎<br>大鼓 河村 大<br>太鼓 井上 敬介                               |
| 4 「囃子」ワークショップ  | 藤田 隆則  |
| 【休 憩】          |  |
| 5 「謡 (高砂)」の練習  | 有松 遼一  |
| 6 「装束」について     | 河村菜穂子  |
| 7 「高砂」後シテの部分鑑賞 | シテ 河村 晴久<br>ワキ 有松 遼一<br>笛 森田 保美<br>小鼓 吉阪 一郎<br>大鼓 河村 大<br>太鼓 井上 敬介<br>地謡 |
| 8 閉会の挨拶        | 今里先生   |

## 「高砂」について

能とは、室町時代に生まれ、今に伝えられる音楽劇ミュージカルです。おおくの作品で、主役が仮面をつけて登場人物に扮して物語を語り、歌を歌い、舞を舞います。

現在演じられる能の作品は、約200番(曲)です。これらの作品は、主人公の性質におうじて「神・男・女・狂・鬼」の5種類に分類されています。

かつて、朝から夜まで一日かけて行われる正式のリサイタルでは、「神・男・女・狂・鬼」からそれぞれ1番ずつ、合わせて5番の能が演じられていました。その合間には、コミカルな劇である狂言も演じられていました。

### 神→(初番目物、脇能)

1日の最初に演じられるものなので、初番目物ともいわれます。また、脇能)あるいは神能とも言われます。主人公は、神であり、神社や寺の物語を語り、国土の安全を祝う舞を舞うなど、お祝いの言葉(祝言と言います)や祝福の気分があふれる作品群です。

「高砂」は、「難波」「弓八幡」「老松」等とともに初番目物の代表的な演目です。

「高砂」は、能の代表的な祝言曲として、広く人々に親しまれてきました。たとえば婚礼の席では、この曲から取られた「高砂やこの浦舟に帆をあげて…」の謡がうたわれてきました。

### <あらすじ>

(前半) 神官(ワキ)が播磨の国、高砂の浦に来る。そこに老夫婦(前ジテとツレ)があらわれて、高砂の松と住吉の松とは、離れていても夫婦であること、松の永遠性やパワーについて物語る。そして自分達は高砂・住吉の松の精であると暗示し、消える。

(後半) 神官(ワキ)は、高砂から船出して、住吉に向かう(『高砂や…』)。そこに住吉明神(後ジテ)が出現して、舞を舞い、千秋楽万歳楽などの目出たい言葉で、永遠を祝福する(『千秋楽は民をなで…』)。

## 出演者

河村晴久 シテ方……

有松遼一 ワキ方……

他の能楽師の方も紹介があるとうれしい

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

鈴江 昭 京都府文化環境部企画専門役

藤田 隆則 京都市立芸術大学教授

河村奈穂子 能楽舎

### ———— アンケート記入をお願いします ————

実行委員会では、学校教育における能の普及を図るために、今後講座内容をさらに充実・発展させていきたいと考えています。そのためにアンケートにご協力ください。よろしく願いいたします。

### ———— 次回のおしらせ ————

2015年10月24日(土) 観世会館にて、「能楽講座」実施予定です。

引き続きの御参加をお待ちいたしております。